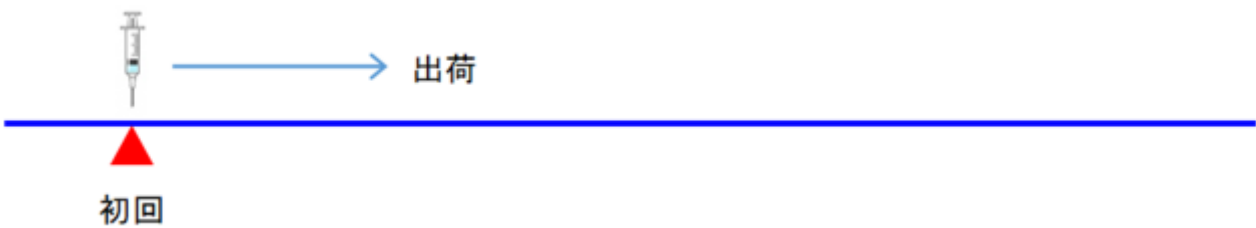


## 豚熱ワクチン接種に係る注意点について

### 1 豚熱ワクチンの接種時期等について

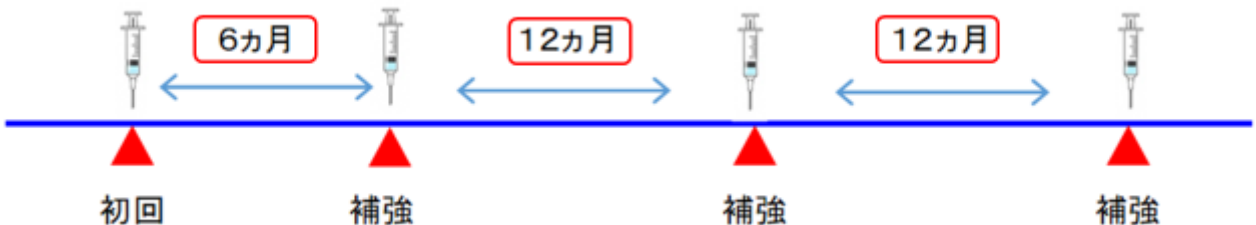
#### ◎離乳豚へのワクチン接種

30～50日齢での接種が望ましい状況です。



#### ◎繁殖豚へのワクチン接種

繁殖豚への接種は、初回接種から6カ月後に1回、その後1年おきに2回、計4回の接種が推奨されています。



### 2 豚熱ワクチン接種豚台帳の作成と記録

ワクチン接種豚の台帳を作成し、接種豚の出生日（導入日）、ワクチン接種歴などを確実に記録し、適切な時期にワクチン接種ができるようにしましょう！

### 3 豚熱ワクチン接種豚のと畜場出荷

ワクチン接種豚は接種の翌日から20日間は出荷できません。

（例）4月1日に接種した豚は、

翌日2日から21日は出荷不可、22日から出荷可

## 4 豚熱ワクチン接種豚の移動について

### ◎移動できる場所について

原則、豚熱ワクチン接種推奨地域内の農場や施設等に限り、移動できます。

### ◎移動する際のV字標識について

令和6年3月28日に豚熱の防疫指針が一部改正され、接種推奨地域内のと畜場に出荷する場合、標識は不要となりました。

**ワクチンを接種していても、豚熱が発生する可能性があります！今一度、飼養衛生管理の点検を！！**

### ◎接種した全ての豚が免疫を獲得できるわけではありません！

- ・ワクチンの免疫付与には個体差があり、全ての豚に対し適切な時期にワクチンを接種することは難しいのが現状です。

**病原体の侵入を防ぐため飼養衛生管理を徹底してください。**

- ✓ 衛生管理区域の設定と立入制限      ✓ 畜産関係者の海外渡航自粛
- ✓ 野生動物等の侵入防止  
(防護柵の点検・保守、畜舎・堆肥舎等への防鳥ネットの設置)
- ✓ 立入記録の作成・保管
- ✓ 豚の飼養管理情報（分娩、出荷、死亡、体調不良等）の記録と保管
- ✓ 豚舎毎に専用長靴・衣服の設置、車両消毒の徹底等
- ✓ 豚死体の適切な保管と処理      ✓ 健康観察と異状\*時の早期通報
  - ※ 40℃以上の発熱、結膜炎、流死産等の症状が一定期間に増加
  - ※ 複数の繁殖豚・肥育豚が一定期間に突然死
  - ※ 耳、下腹部、四肢等にチアノーゼが認められる

**家畜に異状が認められた場合は速やかに連絡してください！**

**庄内家畜保健衛生所：0235-68-2151** (夜間・休日は緊急携帯電話へ転送)